

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和3年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

資料3

事業名	①南あわじ市の歴史文化遺産を体感するヘリテージツーリズム事業					新・継・協の別	新規	補・単の別	補	総合戦略上の位置付け	基本目標 I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち III 魅力と味力があふれるまち(ふるさと) IV 子育てしやすいまち
事業の目的	本市の魅力をもっと深めるため、歴史文化遺産と他分野とを関連付け、市民の郷土愛を醸成するとともに、地域住民が主体となって島内外にPRをおこない、市内広域観光の循環を促進させるようなコンテンツを構築することにより、交流人口の拡大、地域への活性化へ展開させ、地方創生を推進する。								施策目標 南あわじ市の歴史文化遺産を体感するヘリテージツーリズム		
対象者(ターゲット)	☑ ②若者(10代、20代)		☐ ③子育て世代							達成状況	B やや遅れが生じており、取り組みを加速化させる必要がある。
事業の概要	【概要】 歴史文化遺産を活用し、本市の魅力を最大限に引き出せる観光コンテンツの開発、情報発信、プロモーションを実施し観光交流人口の拡大を目指す。									令和3年度実績 に対する 自己評価 KPI① 淡路地域としては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令により大幅に減少した。一方、そんな状況の中、近場を楽しむ地域として、日帰り来訪者は多く見られた。今後は、総合的観光商品(観光資源と歴史文化遺産)のPRに力を入れ、南あわじ市の観光資源と歴史文化遺産の魅力を一纏に届けるような取り組みを行い、市内に滞在し観光消費してもらうための誘客を行っていく必要がある。 KPI② 令和2年度に開発した総合的観光商品(観光資源と歴史文化遺産)のPRを行い、観光とあわせて、文化財を知っていただくことで魅力を伝えることが出来た。電子媒体を活用し、市内の歴史文化遺産の魅力を学習を通して伝えることにより、子供から大人まで利用していただくことが出来た。また、市内の未就学児に遊びを通して文化財に関わってもらえるグッズを発行することで、文化財を知ってもらうことができた。 今後は、宿泊者数の増加、日帰り者数の増加にむけ、観光資源と歴史文化遺産をかけた企画や商品のPRを強化し、誘客を行い、滞在時間の延長を目指していく必要がある。 KPI③ 玉青館でのワークショップなどは一定期間中止及び規模を縮小して開催せざるを得なかったが、地域の伝統産業の瓦や海ホテルなどを使った淡路島ならではのプログラムを実施し、今後のワークショップの充実と広がりに期待ができた。また、銅鑼のみならず、「城郭」という切り口から、歴史体験フィールドワークを3回実施し、古代から現代まで時代ごとに淡路島が果たしてきた役割を体系的に学び、情報発信することができた。 学習・体験を通して、歴史文化遺産の認知度を高め、文化財を身近に感じていただけるような企画を展開していく。また、歴史文化遺産を学習・体験できる文化財観光の拠点となるよう、松帆銅鑼展示室のある玉青館を活用し、ワークショップ・イベントを行う	
KPI	KPI① 淡路地域観光消費額 KPI② 南あわじ市観光施設入り込み数 KPI③ 古代体験ワークショップ参加者数										
KPI①(下段実績)	現状	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
KPI②(下段実績)	287万人	328万人	337万人	347万人							
KPI③(下段実績)	627人	677人	727人	827人							
事業期間	平成 31 年度 ~ 令和 03 年度										
総事業費(一般財源)	53,062 千円 (26,532 千円)										
事業費内訳	年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
	事業費	11,516	19,962	21,584							
	特定財源	5,758	9,981	10,792							
	一般財源	5,759	9,981	10,792							
取組実績及び事業費(総事業費、令和3年度事業費)	①松帆銅鑼展示施設情報発信事業 展示会(他地域の青銅器の展示)を通じて情報発信活動を行い、松帆銅鑼を身近に感じてもらうことで、文化財の魅力が届けられることが出来た。 ・特別展覧会等経費(展示物運搬費、ポスター・チラシ印刷、展示ケース環境検査、デジタルサイネージ広告等ほか) 3,646,485円 ②歴史文化遺産観光商品プロモーション販売事業 R2年度事業により開発した商品販売を行った。文化財と観光を繋ぎあわせることで、異なる角度からの南あわじ市の魅力を伝えることが出来た。ファミリー・若者をターゲットにした電子媒体を活用した学びのコンテンツを運用。また地元の子供向けの遊びの中にまなびをとりに来た商品を製作し、文化財との関りをもたせることができた。 ・ふるさと教育による南あわじ市「学ぶ楽しさ日本一」プロジェクト業務 14,937,450円 ③歴史文化遺産魅力普及啓発事業 住民組織による商品開発、地元の観光業者のPR能力向上を図るための研修、観光商品のPRを行った。歴史を活かしたまちづくり実行委員会の新しい商品の開発を行った。また地元の観光業者への研修を行うことで、文化財のPR活動にもつなげることが出来た。 ・普及啓発・企画実践・イベント等事業 3,000,000円										
新型交付金の対象区分	① 先駆性のある取り組み ② 既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み ③ 先駆的事例・優良事業の横展開										
担当部署等	教育委員会	社会教育課	文化財係	担当者:	山崎 千和紀	内線:	5232				

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和3年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	②淡路島総合観光戦略推進プロジェクト					新・継・拡の別	継続	補・単の別	補	総合戦略上の位置付け	基本目標 I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち III 魅力と味力があふれるまち(ふるさと) IV 子育てしやすいまち
事業の目的	淡路島観光におけるDMO組織体制を構築し、これらの事業を実施することによって、首都圏及び海外からの観光客誘致を実現し、雇用を創出することで地域の活力を向上させ、淡路島の人口減少に歯止めをかける。										
対象者(ターゲット)	☑ ②若者(10代、20代)		☑ ⑦来訪者								達成状況 B やや遅れが生じており、取り組みを加速化させる必要がある
事業の概要	【概要】 淡路島観光協会組織体制の強化及び観光客を呼び込むプロモーションに取り組む。 ■組織体制の強化 ①専門人材の登用、②外国人対応業務 ■国内外から観光客を呼び込むプロモーション ①首都圏・中京圏向け誘客事業、②インバウンド誘客促進事業、③情報発信 ④日本遺産「国生みの島」推進事業、⑤他地域と連携したプロモーションの実施 ⑥調査分析業務の実施					令和3年度実績に対する主管課自己評価					【事業実績】 新型コロナウイルス感染拡大等の影響により事業の見直しを行いながら、次のとおり事業を実施し、淡路島内への誘客促進に繋がるプロモーションや人材育成等を行った。 ①確実な観光客の確保が可能な関西圏へのPR及び令和2年度の事業展開が困難であった首都圏プロモーションを実施、②インフルエンサーの視察ツアーやWebを活用したプロモーション事業を実施、③新型コロナウイルス収束後の観光客の受入体制を整備するため、島内観光関係者への人材育成研修を実施、④スマホアプリを活用した国内向けのサイクリング周遊イベント等を実施、⑤新型コロナウイルス感染拡大の影響による健康意識の高まりをふまえ、健康の維持と観光をつなげた「ウェルネストラベル促進事業」を実施、⑥ビッグデータを活用した国内観光客動態調査を実施 【自己評価】 令和2年度観光客動態調査では、淡路島の観光客入込数が802万人で、令和元年度に比べ457.9万人減のマイナス42.6%であった。 新型コロナの影響で島内海水浴場の閉鎖や、洲本温泉や伊弉諾神宮等の多くの施設で外出自粛の影響により大きく減少した。 上記の通り、新型コロナの影響で計画どおりに成果を上げることが出来なかったが、国内外観光情勢の流れを見ながら事業変更をし、マイクロツーリズムを推進したほか、大阪・関西万博を見据えて人材育成の研修やウェルネストラベル促進事業、首都圏プロモーション等を実施することが出来た。
KPI	KPI①＝観光客入込客数(万人) KPI②＝宿泊客数(万人) KPI③＝外国人宿泊客数(万人) KPI④＝観光消費額(億円)										
KPI①(下段実績)	現状	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
KPI②(下段実績)	1349万人	1386万人	1424万人	1463万人							
KPI③(下段実績)	1257万人	1260万人	802万人	804万人							
KPI④(下段実績)	150万人	161万人	173万人	186万人							
KPI①(下段実績)	126万人	124万人	75万人	75万人							
KPI②(下段実績)	6.5万人	8.0万人	9.9万人	12.2万人							
KPI③(下段実績)	3.0万人	2.8万人	0.0万人	0.0万人							
KPI④(下段実績)	1355億円	1475億円	1605億円	1747億円							
KPI①(下段実績)	1184億円	1227億円	707億円								
事業期間	平成 31 年度 ~ 令和 03 年度										
総事業費(一般財源)	36,352 千円 (18,176 千円)										
事業費内訳	年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
	事業費	36,352	54,950	48,128							
	特定財源	18,176	27,475	24,064							
	一般財源	18,176	27,475	24,064							
取組実績及び事業費(総事業費、令和2年度事業費)	1. 首都圏・関西圏向け事業 12,928,000千円 2. インバウンド誘客推進事業 4,500,000千円 3. 来島者受入環境整備事業 3,000,000千円 4. サイクリングアイランド推進事業 3,000,000千円 5. 日本遺産活用事業 4,800,000千円 6. ウェルネストラベル促進事業 5,000,000千円 7. 専門人材・外国語対応の業務提携 9,200,000千円 8. 調査・分析業務 5,700,000千円 総事業費 48,128,000千円 ※うち南あわじ市交付金対象経費 8,576千円、交付金額4,288千円										
新型交付金の対象区分	① 先駆性のある取り組み										
	② 既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み										
	③ 先駆的事例・優良事業の横展開										
担当部署等	産業建設部 観光交流・施設室		担当者:	土居	内線:	7202					

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和3年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	③ふるさと教育による南あわじ市「学ぶ楽しさ日本一」プロジェクト						新・継・拡の別	新規	補・単の別	補	I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち	
事業の目的	学校・家庭・地域が連携しながら学ぶ楽しさを感じ、追及する教育を推進することで、子どもたちの知識・技能や思考力・判断力・表現力を伸ばし、人と関わる力・やり抜く力・学びに向かう力・人間性を培っていく。						総合戦略上の位置付け				基本目標	II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち
											III 魅力と味力があふれるまち(ふるさと)	
対象者(ターゲット)	□ ①子ども		□ ③子育て世代				令和3年度実績に対する主管課自己評価				IV 子育てしやすいまち	
事業の概要	【概要】 先進的な経験や地域との関わりを通じてふるさと意識を醸成する「アフタースクール」、伝統文化を生かした「コアカリキュラム」、日本を代表するアスリート等との交流「夢プロジェクト」、夏休みを活用したサマースクール「山の学園」などを実施するとともに、市内離島への「離島留学制度」の構築を図る。										達成状況	A
KPI	KPI① 社会増(10歳～19歳) KPI② アフタースクール参加人数に占める学童対象外の子どもの比率 KPI③ 授業実施前後に行うアンケートでのふるさとを愛する児童生徒の割合の伸び率						【コアカリキュラム】 ブラッシュアップ研修によりICTの活用を組み入れたカリキュラム改訂や、振り返りシートをもとにした各校における身につけさせたい資質・能力の定着度の分析を実施することができた。9年間の学習の積み上げなので、今後も市独自にブラッシュアップ作業を展開し、毎年児童生徒の実情に合わせて、少しずつカリキュラムや評価等の微調整を行い、本カリキュラムの充実と実践により「学ぶ楽しさ」の核となる教育活動を継続していく。 【スクールチャレンジ】 学校評価などを基に取組課題を洗い出し、全教職員で共有することができ、課題解決に向けて取り組みや、教職員の自主性を育むことができた。めざす子どもの姿への到達度を図るルーブリック評価を有効に活用し、事前に児童生徒自身が目標を理解し、現時点での到達度を確認しながら主体的に取り組める環境づくりを行っていく。 【離島留学】 小中一貫の特色ある教育推進の一環として沼島中学校に柔道部を新設する準備ができ、沼島での充実した指導体制を全国に発信することができるようになった。引き続きICT教育環境の整備や通学支援を充実し、留学体験の受け入れを推進し、沼島での就学生徒数の増加や移住促進を図っていく。 【アフタースクール】 市内15校区ある小学校のうち5カ所で実施。新型コロナウイルス感染症の影響により新規開設の2カ所では学童保育の利用児童のみとなったが、「まちの先生」といった地域の人たちや企業等の協力によって、スポーツや遊びを通じた多種多様な体験プログラムを提供することができた。また、今後の更なる拡大を目指し、既存の学童保育支援員や放課後子ども教室スタッフ等への研修に力を入れる。					
KPI①(下段実績)	現状	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度						
KPI②(下段実績)	30%	32%	35%	38%	41%	45%						
KPI③(下段実績)	20%	30%	40%	50%	60%	70%						
事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 6 年度											
総事業費(一般財源)	197,446 千円 (98,724 千円)											
事業費内訳	年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度						
	事業費	12,613	29,560	47,233	54,330	53,710						
	特定財源	6,306	14,780	23,616	27,165	26,855						
取組実績及び事業費(令和2年度事業費)	一般財源	6,307	14,780	23,617	27,165	26,855						
	【コアカリキュラム】 総事業費：2,941千円 淡路人形浄瑠璃を核にした小中学校9年間の教育実践に取り組むもの。 ①講師等謝礼(ゲストティーチャー) 10千円 ②コアカリキュラム開発業務委託料 2,829千円 ③人形浄瑠璃施設借上料 102千円 【スクールチャレンジ】 総事業費：5,505千円 各学校がそれぞれの課題や特色に応じて、主体的に独自の切り口で課題解決に取り組むもの。 ①スクールチャレンジ事業補助金 5,505千円 【離島留学】 総事業費：2,894千円 離島留学を推進するため、沼島での特色ある教育と指導体制を図るもの。 ①備品購入費(柔道用畳等) 2,894千円 【アフタースクール事業】 総事業費：18,220千円 放課後にすべての児童を対象に、地域人材等を活用し、多種多様な体験プログラムを提供するもの。 ①講師等謝礼 12,723千円 ②運営支援員がスタッフ研修 5,497千円											
	① 先駆性のある取り組み											
新型交付金の対象区分	○	② 既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み										
	○	③ 先駆的事例・優良事業の横展開										
担当部署等	教育委員会	教育総務課	担当者:	森山 雅生	内線:	2211						

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和3年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	④南あわじ発「人生100年時代の働き方改革」プロジェクト						新・継・協の別	新規	補・単の別	単	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち ○ II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち III 魅力と味力があふれるまち(ふるさと) IV 子育てしやすいまち			
事業の目的	高齢者の方々がいつまでも健康で仕事や社会貢献活動を継続することにより、現役で活躍し続ける社会の実現をめざす。											施策目標	高齢者等の雇用・活躍の場の拡大			
対象者(ターゲット)	☑ ④シニア世代										達成状況	A	目標達成に向けて概ね順調			
事業の概要	【概要】 人手不足にある事業者で働きたい意欲のある高齢者が活躍できるようにするための取組を、今後3年間かけて実施し、高齢者雇用の基盤を構築する。										令和3年度実績に対する主管課自己評価	シニア世代の方々の多様な活躍の場の創出と参画を促進するため、令和3年度は、市民セミナー(5回)や事業者セミナー(3回)の開催に加え、ポスターやリーフレットなど広報啓発物を作成するなど、市内全域に普及促進を行った。 その結果、KPIは概ね目標を大幅に上回った。 ・本事業を通して新規就労した高齢者数29人(目標10人) ・就労を動機付けするセミナーの受講人数184人(目標100人) ・高齢人材の活用を促進するセミナーの受講企業数40社(目標15社)				
KPI	KPI① 本事業へ的高齢者等の活動登録者数 KPI② 就労を動機付けするセミナーの受講人数 KPI③ 高齢人材の活用を促進するセミナーの受講企業数 KPI④ シニア層(60歳代以上)の人口流入増加数(住民基本台帳移動報告)											高齢者の就労の場の開拓に向けて、市内の事業所32社(前年度33社)への訪問、各種団体への説明を行い、高齢者の雇用創出を働きかけた結果、モデル事業者は新たに11社(前年度11社)増加するなど、高齢者雇用を推進した。				
KPI①(下段実績)	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度										
KPI②(下段実績)	—	10人	10人	15人	15人	15人										
KPI③(下段実績)	—	29	100人	100人	110人	120人	130人									
KPI④(下段実績)	—	184人	15社	15社	20社	20社	25社									
事業期間	令和 3 年度 ~ 令和 5 年度															
総事業費(一般財源)	25,000 千円 (12,500 千円)															
事業費内訳	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度										
	事業費	8,000	8,500	8,500												
	特定財源	4,000	4,250	4,250												
	一般財源	4,000	4,250	4,250												
取組実績及び事業費(令和3年度事業費)	・企業と高齢者の意識改革事業(業務委託費)8,000千円(内訳) (1)企業の意識改革セミナー開催費 4,000千円 (2)高齢者の意識改革セミナー開催費 3,000千円 (3)広報啓発資料(リーフレット、ポスター等)の作成費 1,000千円															
新型交付金の対象区分	○ ③ 先駆的事例・優良事業の横展開															
担当部署等	総務企画部	市民協働課	生涯活躍推進室	担当者:	善甫 忠昭	内線:	2211									

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和3年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	⑤世界最大級『鳴門の渦潮』を中心とした広域観光ブランディング事業						新・継・振の別	新規	補・単の別	単	総合戦略上の位置付け	基本目標 I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち III 魅力と味があふれるまち(ふるさと) IV 子育てしやすいまち
事業の目的	世界最大級の『鳴門の渦潮』を核とした観光エリアのブランディングを行い、これまで通過型の観光地であった鳴門・南あわじ両市において、若者や外国人観光客の誘客増加を図るとともに、長期滞在型の観光を誘発させることにより、観光消費額、ひいては宿泊単価率を上昇させる。また地域の観光事業者とともに商品開発を行い、稼ぐ仕組みを作り出すことにより、持続可能な地域づくりを目指す。											
対象者(ターゲット)	⑥地域			⑦来訪者							達成状況	A 目標達成に向けて概ね順調
事業の概要	【概要】 鳴門市と南あわじ市だけが持つ『鳴門の渦潮』の存在を核とし、『グルメ開発(商品開発)』、『自然を生かした体験(若者向けコンテンツ)の創出』、『宿泊サービス向上』を3本柱と位置づけ、各事業者のレベル向上、共通プロモーション等を展開する。										令和3年度実績に対する主管課自己評価 1.広域連携計画策定業務 2025年の大阪・関西万博を見据え、これまでの通過型観光に加え、新たに滞在型観光の促進することが重要。そこで本業務では、アンケート調査やヒアリング調査等を実施した上で、観光関連団体等で組織するワークショップを組織し、両市が連携し、取組むべき方向性を「うずしお地域観光ブランディング事業」として取りまとめられた。 2.雑誌・SNSを活用したプロモーション 両市の取組を知ってもらうため、旅行雑誌に広告を出稿したほか、大手旅行サイト「じゃらんネット」に両市の専用ページを掲載し、加えてSNSのターゲティング広告を活用し、同専用ページへの誘導を図った結果、一定程度効果があったと考える。今後も一層認知度を上げるため、継続してプロモーションを実施することが重要。 3.うずしお地域のホームページ制作 両市の周遊を促進し、滞在時間を延ばさせるため、両市の魅力や取組を紹介するホームページを制作した。制作にあたっては、広報紙や各種団体を通じて市内事業者に照会し、観光施設のほか、飲食店や宿泊施設を掲載することが出来た。 4.うずしおグルメ開発事業(1年目) 旅の目的となり得る「食」をPRするため、両市飲食店・宿泊事業者が同じルールで商品開発を行った。具体的には、①市内で水揚げされた魚介類を3種類以上使う、②両市の食材(たまねぎやレンコンなど)を1種類以上使用する。SNS映えるようにフプレートにまとめるなど。 両市で25店舗30メニュー(本市:12店舗13メニュー、鳴門市:13店舗:17メニュー)が誕生した。 5.ホスピタリティの育成・向上 観光関係者のおもてなし意識の向上、地域としての一体感の醸成を目的として「マイスター制度」を導入の検討を進めた。まずは「食」を中心に、この地域の食材はなぜ美味しいのかなどを語る人材の育成(研修方法、認定方法など)を具体化する。	
KPI	KPI① 南あわじ市・鳴門市が新たに作成・達成を行った商品・サービスの売上高 KPI② 南あわじ市・鳴門市の宿泊施設における宿泊単価上昇率											
KPI①(下段実績)	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度						
KPI②(下段実績)	—	—	20,000千円	40,000千円								
KPI③(下段実績)	—	—	5%	10%								
KPI④(下段実績)	—	—										
事業期間	令和3年度～令和5年度											
総事業費(一般財源)	140,086千円(65,294千円)											
事業費内訳	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度						
	事業費	45,586	50,500	44,000								
	特定財源	22,792	20,500	22,000								
取組実績及び事業費(令和3年度事業費)	一般財源	22,794	20,500	22,000								
	【委託費】45,586千円(鳴門市と折半) 【委託先】株式会社リクルート 【事業内容】 A.計画・戦略策定事業 1:広域連携計画策定業務 B.プロモーション事業 2:雑誌・SNSを活用したプロモーション 3:うずしお地域のホームページ制作 C.商品開発事業 4:うずしおグルメ開発事業(1年目) D.ホスピタリティの育成・向上 5:ホスピタリティの育成・向上											
新型交付金の対象区分	① 先駆性のある取り組み											
	② 既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み											
	③ 先駆的事例・優良事業の横展開											
担当部署等	産業建設部 商工観光課		担当者:	林	内線:	7204						